

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0696
施設名	敬愛たかお保育園
施設所在地	八王子市東浅川町5 5 0 - 3 2
法人名	社会福祉法人敬愛学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

氷の不思議味わおう！

<テーマの設定理由>

ある日園庭で遊んでいて霜柱を見つけました。きらきらした霜柱、とても大きな霜柱、面白い形の霜柱をみつけ、大興奮しながら「ぬらしたらどうなるかな」「ずっとおいとけないかな」と好奇心と探求心をもって友達同士で伝えあう姿があったため、お子さまの主体性を大切にした活動展開ができると考えました。

2. 活動スケジュール

①戸外にでて霜柱を見つける
②顕微鏡で観察する
③霜柱だけではなく氷も見つける
④氷のお面をつくる
以上はスケジュールをたてたのではなく、お子さま達の毎日のフィードバックから遊びが主体的に展開していきました

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・顕微鏡
・粘土（毎日氷や霜柱探しに没頭していき、自然現象に興味をもち、いつも見ている図鑑から氷のお面作りをしたいと声が上がったので用意した）
・温度計

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①戸外にでて霜柱を見つける
- ②顕微鏡で観察する
- ③霜柱だけではなく氷を見つける
- ④氷のお面をつくる
- ⑤天気予報を通して、天気・気温などに興味をもつ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

園庭で遊んでいて見つけた霜柱に興味をもち、「かきごおりみたい!」「ほうせきみたい!」と形、色、感触を味わいました。顕微鏡で観察してみることにになり、「せんになっている」「メロンみたいなもようだ」と肉眼では見えない部分を見ることができ、氷だけではなく、身の回りのものはどう見えるのか木の枝、葉っぱ、指と観察することに夢中になりました。次は公園で氷も見つけ顕微鏡でみることにになり、氷と霜柱は中が一緒ではないこと、氷の中にいる虫をみつけ、氷の中では虫が生きられることを知りました。図鑑で見つけた氷のお面づくりに発展していきました。作るために何が必要か、水の量はどのくらいがいいのか、友達同士で役割分担が自然とできました。しかし氷のお面はできず、今度はどうしてできなかったか話し合いが始まりました。「夜は凍っていたけど朝太陽があたってとけたのでは?」「寒くなかったから?」「寒い日を天気予報でしらべよう」と興味関心がどんどん広がっていきました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

お子さまから湧き上がる興味関心を保育者が「おもしろい!」と感じて「一緒に探求していこう!」という気持ちが大事であると思いました。そこに顕微鏡や温度計・図鑑・絵本等を準備することによってより主体的な学びが深まったと感じました。